

指導プランの読み方

指導プランでは、対象の子どもを「マルコスさん」、外国人児童生徒教室担当を「田中（たなか）美子（よしこ）先生」、在籍学級の担任を「川上（かわかみ）徹（とおる）先生」、在籍学級の児童の一人を「富士山（ふじやま）花子（はなこ）さん」としています。

学習する内容		日本語表現・語彙・文字表記	
<p>○給食を小グループで食べながら、自己紹介をする。</p> <p>○友産の名前を覚える。</p> <p>○「きょうは」を覚える。</p> <p>○「おいしい／おいしくない」を覚える。</p> <p>その日(2時間の目安)に、学習する内容を記載しています。</p>		<p>○いただきます。どうもありがとうございました。</p> <p>○来て／見て</p> <p>○これ／あれ</p> <p>学習する具体的な表現、語彙、文字表記の内容を記載しています。</p>	
流れ	活動（発問・文型・語彙等）	準備物等	
<p>1. 挨拶</p> <p>おおまかな授業の流れを記載しています。</p> <p>指導プランを抜粋して使うこともできます。部分的に取り出してプランの活用が可能なところに、この矢印と時間を入れてあります。</p> <p>20～30分 単活動可</p>	<p>在籍学級の担任等が、「今日は、〇〇さんと一緒に食べましょう。」と言って、1グループの子どもがいる教室まで連れてくる。</p> <p>第4、5日目に、クラスで自己紹介をする。</p> <p>⑤「マルコスさんの4人組は、毎日「こんにちは」は覚えて、〇〇〇〇語で挨拶をする。</p> <p>指導者の発問等と子どもの活動を記載しています。また、扱う表現や語彙を記載しています。</p>	<p>在籍学級の1グループ1分の机椅子</p> <p>準備する物、使用するテキストのページ数等を記載しています。</p> <p>外国人の子どもの母語では、「こんにちは」及び食事前や食事後の挨拶をどう表現しているのか調べておく。</p>	
家庭学習		備考・連絡	
<p>家庭で学習してくる課題を記載しています。次の授業で答え合わせをします。</p>		<p>進度や子どもの状況等をメモしたり、学級担任に伝えることを記録したりする欄です。</p>	

今日の活動・指導のヒント

(1) この指導プランは、外国人児童生徒教室から10日目までは、在籍学級の担任等が、外国人児童生徒教室から10日目までは、在籍学級に入る前に、1日1日の給食から在籍学級に入る前に、

上の表内では表現できなかった留意点やヒントを記載しています。また、指導する際のイメージがわかりやすいように、写真やワークシートを添付してあります。

指導プラン 1日目



おはよう。
わたしは、〇〇です。

学習する内容		日本語表現・語彙・文字表記
<ul style="list-style-type: none"> ○簡単な挨拶表現を覚える。 ○自分の名前（平仮名）を読む・書く。 ○あ行の平仮名を読む・書く。 ○「いい／だめ」の表現を覚える。 		<ul style="list-style-type: none"> ○おはよう（ございます）、こんにちは、さよなら、バイバイ、ありがとう、ごめんなさい ○自分の名前、指導者の名前 ○平仮名（あ、い、う、え、お） ○いい／だめ、先生、トイレ、水
流れ	活動（発問・文型・語彙等）	準備物等
1 挨拶	<p>おはようございます。 (その子どもの母国語でも挨拶をする。)</p>	
2 自己紹介	<p>(1) 互いに自己紹介をする。 T: 私は、田中です。(自分の胸を指さしながら) あなたの名前は何ですか？(子どもの方に手を差し出して聞く。) C: マルコス。 T: マルコスさん。私は、田中です。よろしく。(答えながら握手をする。)これから日本語の勉強をしましょう。 (2) 指導者が自己紹介カードを指差し、説明する。 T: た な か、た な か、た な か。先生の顔、顔、顔。 (3) 指導者が、子ども用の自己紹介カードを指差し、説明する。 T: あなたの顔、顔、顔。マルコスさんの顔、顔、顔。描いて。 (と言い、描かせる。) (4) 描いている間に、写真を撮って印刷し、掲示する。 T: 写真を撮っていい？(ジェスチャーで示しながら言う。) (5) 自己紹介カードの絵の部分が描けたら、『にほんごをまなぼう』(文部省)【P10】「2 わたしのなまえ」のイラストを使い、自己紹介の練習をさせる。 T: 先生は、田中です。よろしく(お願いします)。(自分の自己紹介カードを見せながら) C: わたし(ぼく)は、マルコスです。よろしく(お願いします)。 (6) 平仮名で自分の名前を書く練習をさせる。 T: 名前を書けるようにしましょう。 C: 「まるこす」を一字ずつ『ひらがなカード』や『ゆびなぞ</p>	<p>自己紹介カード(先生があらかじめ記入してあるもの) 自己紹介カード(子ども用) ※A4判 上に似顔絵が描けるスペース、下に①名前②出身同名③年齢④学年等が書き込めるもの。 ※誕生日を書く欄も作っておくが、この日は記入しない。第11日目に「何月何日？」を学習するときに使う。</p> <p>色鉛筆 カメラ</p> <p>『にほんごをまなぼう』(文部省)【P10】</p>

	<p>りカード』やなぞり書きのワークシート等を使って練習をさせる。</p> <p>(7) 子どもに自己紹介カードの似顔絵の下に平仮名で名前を書かせる。</p> <p>(8) 完成したら、子どもに自分の自己紹介カードを使って、もう一度自己紹介をさせる。</p> <p>C: わたし〈ぼく〉は、マルコスです。よろしくお願ひします。</p> <p>(9) 指導者の名前を平仮名で書けるようにさせる。</p> <p>T: 先生の名前を書きましょう。(ジェスチャーで示しながら言う。)</p> <p>例: 「たなか」といった名前を一文字ずつ『ひらがなカード』や『ゆびなぞりカード』やなぞり書きのワークシート等を使って練習をさせる。</p> <p>(10) 最後に再び自己紹介カードを使って、子どもに自己紹介をさせる。</p> <p>C: わたし〈ぼく〉は、マルコスです。よろしくお願ひします。</p> <p>T: 先生は、たなかです。よろしくお願ひします。</p>	<p>子どもの名前のなぞり書きシートを作成しておく。</p> <p>例: 「まるこす」の縦書き用・横書き用の名前のなぞり書きシート</p> <p>※『ともだちになろう』(静岡県教育委員会)【P4】の「なまえをかこう」を使うこともできる。</p>
<p>3 挨拶の言葉</p> <p>20~30分 単活動可</p>	<p>『にほんごをまなぼう』の【P6, 7】を使い、挨拶の言葉を練習させる。イラストを指差しながら、指導者の後に続いて子どもに言わせる。</p> <p>T: 朝は、おはよう(ございます)。</p> <p>C: おはよう(ございます)。</p> <p>T: 昼は、こんにちは。</p> <p>C: こんにちは。</p> <p>T: 別れるときは、さようなら。バイバイ。</p> <p>C: さようなら。バイバイ。</p> <p>T: 何かをしてもらったら、ありがとう(ございます)。</p> <p>C: ありがとう(ございます)。</p> <p>T: 悪いことをしてしまったら、ごめんなさい。</p> <p>C: ごめんなさい。</p>	<p>『にほんごをまなぼう』(文部省)【P6, 7】</p>
<p>4 「いい/だめ」の表現</p>	<p>『日本語学級Ⅰ初期必修の語彙と文字』【P2~5】を使い、「いい/だめ」を覚えさせる。</p> <p>※「先生」「トイレ」「水」が何か、分かるようにさせる。</p>	

5 平仮名の読み書き（あ行）

20~40分
単活動可

平仮名の読み書きを始める。

T：平仮名を覚えよう。

※このカリキュラムでは、便宜上、『ひらがなカード』『ゆびなぞりカード ひらがな』（くもん出版）を使用しているが、自作のカード等を代替してもよい。

(1) 「あ」のカードを見せて「あ」と言い、子どもに「あ」と言わせる。

(2) 次に、裏の蟻の絵を見せて、指導者が「あり」と言う。次に、子どもに「あり」と言わせる。

「い」、「う」、「え」、「お」も同じように子どもに言わせる。

(3) 繰り返してだんだん言わせていく。「あーいーうーえーお」の順番で、言えるようになったら、今度は、アトランダムに見せて言わせる。

(4) ひらがなカードを机の上に置いてカルタをする。指導者が「あ」と言って、子どもが「あ」のカードを取れるか確かめる。カードを取れるようになるまで、繰り返させる。

(5) 次に、同じようにカードを机の上に置くが、今度は指導者が何も言わず、カードを指差し、そのカードの読みを子どもに言わせる。

(6) 読めるようになったら、「ゆびなぞりカード」等を使い、指でなぞり、「あ ①イチ、②ニ、③サーン。」と声を出しながら書かせいく。

(7) 次に、鉛筆で書き順を声に出させながらなぞり書きをさせる。『ひろこさんのたのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ・れんしゅうちょう』を使う。

※このカリキュラムでは、『ひろこさんのたのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ・れんしゅうちょう』を使用しているが、初期ひらがな学習用のドリルなどで代替してもかまわない。最初は大きいマスのもを使う。

(8) なぞり書きができるようになったら、点線のないシートを使って、書き順を声に出させながら写し書きをさせる。

(9) 家庭学習で、指導に使用したものと同じプリントをやらせる。

『日本語学級1初期必修の語彙と文字』

(凡人社)

【P2~5】

「50音表」

『ひらがなカード』
(くもん出版)



『ゆびなぞりカード ひらがな』

(くもん出版)

『ひろこさんのたのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ・れんしゅうちょう』(凡人社)

【P1, 2】

あ行の平仮名なぞり書きシート

6 挨拶

T：終わりました。さようなら。

C：終わりました。さようなら。

家庭学習	備考・連絡
<p>自分の名前のなぞり書きシート、指導者の名前のなぞり書きシート あ行の平仮名なぞり書きシート ※クリアファイル（保存用に用意する。） 『ひろこさんのたのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅう うちょう』（凡人社）【P1、2】 ※「平仮名なぞり書きシート」とは、『ひろこさんのたのしいにほんご1 ひら がな・かたかな・かんじ れんしゅううちょう』（凡人社）の【P1、2】にあ るような平仮名が点線で書かれていて、点線をなぞれば平仮名を書くことが できるようになっているもの。</p>	

今日の活動・指導のヒント

(1) 初めの挨拶

- ア 「おはようございます。」と日本語で言った後、外国人の子どもの母国語での挨拶を調べておき、その国の言葉で挨拶をする。初対面の出会いの場面であり、笑顔を忘れない。
- イ 一方的に言葉を教えるだけでなく、指導者もその子どもの国の言葉を学ぼうとしていることを伝える。
- ウ 写真を撮られることに抵抗感を示す子どももいるため、無理に撮影をせず、子どもとの信頼関係づくりや楽しく学ぶ姿勢づくりに重点をおく。

(2) 挨拶の言葉

- ア 外国人の子どもの母語の言葉を覚えておいて、挨拶をすると子どもが安心する。
- イ 「おはよう」は、朝起きたときのジェスチャーをしながら「おはよう」と言う。『にほんごをまなぼう』（文部省）の使用のページを見せて行う。太陽の位置が低いのは朝。高いのが昼……。再び下がってくると「こんばんは」となってくる。
- ウ 校内の教職員（または関係者）に、指導教室に意図的に立ち寄りもらい、「おはようございます。ぼくは、(例) マルコスです。よろしくお願ひします。」と必然的に言う機会を設定する。
4、5日目に在籍学級に行き、自己紹介ができるようにする。学校全体でその子どもを受け入れようとする姿勢を見せる。

(3) いい／だめ

- ア 指導者は、実際にジェスチャーを付けて演技してみせる。
- イ 悪いことをやって見せて、「いい／だめ」を言わせる。
例：学校でガムを食べる。
例：机に足を乗せる。
- ウ その子どもの国では許されているかもしれないことを、把握しておきたい。
例：ブラジルでは許されても、日本では許されないことがあるので、その場合は、日本では許されないということを伝える。
- エ 友人関係構築支援の内容も入れていく。

例：故意に暗い声で「おはよう。」と言ってから、「いい？だめ？」と聞く。

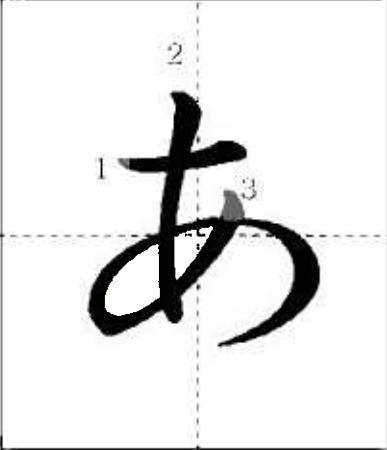
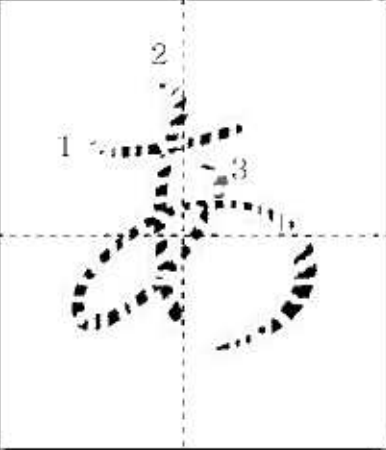
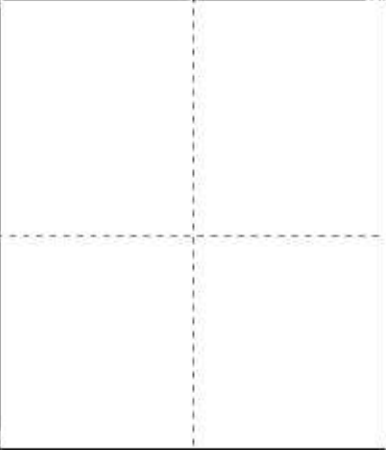
次に、明るい声で「おはよう。」と言ってから、「いい？だめ？」と聞く。

(4) 「5 平仮名の読み書き」について

ア 指書き・・・書いてある文字の上に指を滑らせて書くこと

なぞり書き・・・点線になっている文字をつなぎあわせて、なぞって書くこと

写し書き・・・手本を見ながら写して書くこと

		
指書き	なぞり書き	写し書き

イ 子どもの実態によっては、1画の中でも容易な「く」「し」「つ」「へ」「て」などから教えていくことも考えられる。

(5) 原則として1日2時間のカリキュラムを設定してあるが、1時間は楽しいコミュニケーション活動を入れる。2時間目は、平仮名などの文字の練習を行い、落ち着いた雰囲気の中で授業を終了したい。

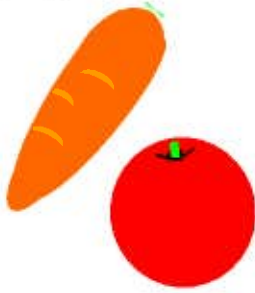
(6) 母国語の理解の程度によって、日本語の理解についても大きく影響があるため、子どもの状況を把握し、適切な指導プランを計画したい。

(7) 読む、書くことについては、聞く、話すことに比べて難しいため、どのような平仮名を扱うかについては、子どもの実態に応じるとともに、繰り返し指導する中で覚えるように配慮したい。

指導プラン 給食編

いただきます。
おいしい。



学習する内容		日本語表現・語彙・文字表記
<ul style="list-style-type: none"> ○食事のときの簡単な挨拶表現を知る。 ○「おいしい／おいしくない」の表現を知る。 ○「これ、〇〇語（子どもの母語）、何？」 		<ul style="list-style-type: none"> ○いただきます。ごちそうさまでした。 ○おいしい ○食器の名前（箸、スプーン、フォーク、碗、お玉杓子、しゃもじなど） ○ 様々な食べ物の名前
流れ	活動（発問・文型・語彙等）	準備物等
1 給食の挨拶	<p>手を合わせるジェスチャーを付けて、指導者が「いただきます。」と言う。</p> <p>子どもに「いただきます。」と言わせる。</p> <p>（その子どもの母国語の食事の挨拶が分かれば、母国語でも挨拶をする。）</p>	<p>白衣、帽子、ナプキン、マスク</p>
2 「おいしい／おいしくない」の表現	<ol style="list-style-type: none"> (1) 給食の食べ物（例えば「焼きそば」）を食べながら、指導者が、にこにこ笑顔で、おいしい表情をして「おいしい。」と言う。 (2) 子どもが食べている物を軽く指差しながら、子どもに「どう？おいしい？」と聞く。 (3) 子どもの表情をくみ取り、おいしそうにしていたら、「おいしいね。」と言う。 (4) 子どもと一緒に「おいしい。」と言うように促す。 (5) 様々なものを食べながら、同じように行う。 (6) 子どもの表情をくみ取り、あまりおいしそうにしていなかったときには、指導者も表情を曇らせて「おいしくない？」と聞く。 (7) 確かに子どもがおいしくなさそうだった場合、「そう、おいしくない。」と言う。（無理に一緒に「おいしくない。」と言わせなくてもよい。） 	<p>※『ともだちになろう』（静岡県教育委員会）【P21】のイラストを使うこともできる。</p> <p>給食で出される様々な食べ物</p> 
3 「これ、〇〇語、何？」の表現	<p>「おいしい」の表現を練習しながら、余裕があれば同時に、給食に出ている食べ物でその子どもの母国にもありそうなものだった場合、「これ、〇〇語（子どもの母語）、何？」の表現を使っていく。</p>	<p>給食等で使用される様々な食器</p>

	<p>(1) 「エンジン」を指差しながら、「これ、〇〇語、何？」と聞く。</p> <p>(2) その子どもの母国語で言わせる。</p> <p>(3) 同じように、何かを指差しながら、「これ、〇〇語、何？」と聞く。</p> <p>※既に「これ、何？」の表現を学習してある場合、この表現を使って、給食に使われる食器や食材を聞くこともできる。学習していない場合は、無理をして扱う必要はない。</p>	
<p>4 給食の挨拶</p>	<p>手を合わせるジェスチャーを付けて、指導者が「ごちそうさまでした。」と言う。</p> <p>一緒に「ごちそうさまでした。」と言う。</p> <p>(その子どもの母国語でも挨拶をする。)</p>	

今日の活動・指導のヒント

- (1) 食べ物は具体物であり、実際に食べるという体験をしながら日本語を学習することができるので、語彙や表現を覚える絶好の機会の一つである。給食の時間に覚えさせようというのではなく、楽しみながら表現を使い、語彙を増やすようにしていきたい。
- (2) 「おいしい」のところでは、「おいしくない」ことを覚えさせようとして、おいしくないものを食べさせる必要はない。外国人の子どもがおいしくないと思っているときは、顔を見れば分かる。まずそうにしていたときに、「おいしくない？」と言えば、「おいしくない。」という言葉覚えていく。
- (3) 給食の時間に指導する内容は、毎日の給食の時間に復習をする。食器の名前や食べ物の名前、「おいしい」の表現を定着させながら、新しい食べ物の名前を覚えていけるようにする。
- (4) 「これ、〇〇語、何？」と聞いて、指導者もその子どもの母国語で何と言うのかを学ぼうとしていることを伝えるとともに、「これ、何？」を既に学習している場合は) 子どもから、日本語で「これ、何？」と聞くように支援したい。
- (5) よく使われるポルトガル語、スペイン語、中国語、フィリピン語で、「いただきます。」や「おいしい」を表記し、掲示しておきたい。(「いただきます。」のような食事前の表現が存在しない言語もあるので、ある場合は、表記しておく。)
- (6) 「好き？/好きじゃない？」を学習した後は、「これ、好き？」と聞くことができる。冷たい牛乳など、好きではないことが分かれば、「好きじゃない？」と聞き、「好きじゃない。」と言う。焼きそばは食べているがエンジンは避けていたら、指導者はエンジンを指差しながら、「好きじゃない？」と聞く。(子どもに無理に「好きじゃない。」と言わせなくてよい。)
- (7) 「ある/ない」を学習した後は、「これ、〇〇語、ある？ない？」と聞くことができる。



例：団子を指差しながら「これ、ブラジル、ある？ない？」と聞くことができる。




すき。
すきじゃない。

学習する内容		日本語表現・語彙・文字表記
○好き／好きじゃない ○わすれた／わすれました ○か行の平仮名を読む・書く。		○好き／好きじゃない ○わすれた／わすれました ○平仮名（か、き、く、け、こ）
流れ	活動（発問・文型・語彙等）	準備物等
1 挨拶	T：おはようございます。 C：おはようございます。 （その子どもの母国語でも挨拶をする。）	
2 自己紹介の復習	(1) 自己紹介の復習を行わせる。 T：（自分の胸を指さしながら）私は、たなかです。よろしく。あなたの名前は何ですか？（子どもの方に手を差し出して聞く。） C：マルコス。（と名前を答える。） T：そう。マルコスさん。私（僕）は、たなかです。よろしく。（と答えながら子どもと握手をする。） (2) 子どもに自己紹介を言わせる。 C：私（僕）は、マルコスです。よろしくお願いします。（「お願いします」までしっかり言うようにさせる。） (3) 挨拶は、はっきりと大きい声で言うことが大切であることも復習させる。	自己紹介のときに作成したカード（指導者、子ども） 自己紹介のときに撮影した写真（指導者、子ども）
3 「いい／だめ」の復習	実際の場面を使って「いい／だめ」の復習をさせる。 (例) T：（指導者がティッシュペーパーを丸めて、教室の床に捨ててから）いい？だめ？（と聞く。） C：だめ。 T：（指導者がティッシュペーパーを丸めて、教室のごみ箱に捨ててから）いい？だめ？（と聞く。） C：いい。	『日本語学級Ⅰ初期必修の語彙と文字』 （丸人社）【P2～5】
4 家庭学習の答え合わせ	家庭学習の答え合わせをする。「あ行の平仮名なぞり書きシート」を見ながら、一つずつ言わせる。指書きをさせて、正しく書けていれば、○をつける。 ※家庭学習を持ってくることを忘れた場合、「わすれた？」	「50音表」を掲示しておく。 『ひろこさんのたのしいにほんご！ ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅう』

10～20分
単活動可

	<p>と聞き、子どもに「わすれました。」と言わせる。『ともだちになろう』【P10】を使い、「わすれました。」の使い方を覚えさせる。【P10】の「いってみよう」の三つのイラストをそれぞれ指差し、「ぼうし、わすれました。」「ハンカチ、わすれました。」「かさ、わすれました。」と指導者が言い、子どもに言わせる。言えるようになったら、「わすれました。」と言うような実際の場面を作り、使う練習をさせる。</p> <p>(例)</p> <p>T: (水道のところに子どもを連れていき、一緒に手を洗う。ハンカチを取り出し、子どもが持っていない場合) わすれました。(と言い、子どもにも「わすれました。」と言わせる。)</p> <p>C: わすれました。</p> <p>※サバイバル表現としては「わすれた」でよいが、教師に対して家庭学習等を忘れた際に言う言葉としては、「わすれました」の方が適当であるため、「わすれました」を使うようにする。</p>	<p>うちよう』 (丸大社)【P1、2】 『ともだちになろう』(静岡市教委)【P10】</p>
<p>5 平仮名の読み書き(あ行)の復習</p> <p></p>	<p>あ行の復習をさせる。</p> <p>「あいうえお」(あり・いぬ・うま・えんぴつ・おに)を『ひらがなカード』等を使って、「あいうえお」を読んだり書いたりさせる。</p>	<p>『ひらがなカード』 (くもん出版)</p> <p>『ゆびなぞりカード ひらがな』(くもん出版)</p>
<p>6 ディクテーション</p>	<p>(1) 5問テストを行う。「あ」と言って、子どもが「あ」と言って正しく書ければ○をつける。同様に「い」から「お」までディクテーション(聞き取り)を行う。指導者は、子どもが間違えたときは、もう一回聞かせて書けるか確認する。書けない場合は、子どもには正解の文字を見て書くようにさせる。</p>	<p>ディクテーション用のテスト用紙</p>
<p>7 「好き／好きじゃない」の表現</p> <p></p>	<p>(1) 食べ物カードを指差し、「これ、好き？好きじゃない？」と聞く。</p> <p>(例)</p> <p>T: (みかんの絵を指差し、) これ、みかん。好き？好きじゃない？(と聞き、にこやかな表情で、) これ、みかん。好き！(と言う。)</p>	<p>「食べ物カード」や「動物カード」 ※カードがない場合は、図鑑や絵本等で代用する。</p>

	<p>C：これ、みかん。好き。</p> <p>(2) 同様に動物カードを指差し、「これ、好き？好きじゃない？」と聞く。</p> <p>(例)</p> <p>T：(かわいい犬の絵を指差し、) これ、犬。好き？好きじゃない？(と聞き、にこやかな表情で、) これ、犬。好き！(と言う。)</p> <p>C：これ、犬。好き。</p> <p>※実物やぬいぐるみなどを使うこともできる。</p> <p>(3) 次に、同じように、みかんの絵を見せ、指差しながら、「これ、みかん。好き？好きじゃない？」と聞く。子どもに答えさせる。「好き。」と答えたら、「そう、これ、好き。」と一緒に言う。</p> <p>(4) 続いて、先ほどと同じように、犬の絵を見せ、指差しながら、「これ、犬。好き？好きじゃない？」と聞く。子どもに答えさせる。「好き。」と答えたら、「そう、これ、好き。」と一緒に言う。</p> <p>(5) その他の食べ物カードや動物カードで練習をさせる。</p>	
<p>8 自己紹介に「好き」を追加した表現</p>	<p>(1) 「私(僕)は、〇〇です。よろしくお願ひします。」までできるようになっているので、そこに、「〇〇が好きです。」を追加して、言う練習をさせる。</p> <p>(例)</p> <p>T：私(僕)は、たなかです。サッカーが好きです。よろしくお願ひします。</p> <p>C：私(僕)は、マルコスです。サッカーが好きです。よろしくお願ひします。</p>	
<p>9 平仮名の読み書き(か行)</p> <p>20~40分 単活動可</p>	<p>あ行と同様にか行の平仮名の読み書きを行わせる。</p> <p>(1) 「ひらがなカード」を見せて指導者が言う。子どもに言わせる。</p> <p>(2) 指導者が「か」のカードの裏の傘の絵を見せて、「かさ」と言い、子どもに言わせる。</p> <p>(3) 「か」「き」「く」「け」「こ」まで同様に繰り返す。「か→き→く→け→こ」の順番で、言えるようになったら、今度は、アトランダムに見せて子どもに言わせる。</p> <p>(4) 「ひらがなカード」を机の上に置いてカルタをする。</p>	<p>『50音表』を掲示する。</p> <p>『ひらがなカード』(くもん出版)</p> <p>『ゆびなぞりカード ひらがな』(くもん出版)</p>

<p>10~20分 単活動可</p>	<p>「か」と言って、子どもが「か」のカードを取れるか確かめる。カードを取れるようになるまで、繰り返す。</p> <p>(5) 次に、同じようにカードを机の上に置くが、今度は指導者が何も言わず、カードを指差し、そのカードの読みを子どもに言わせる。</p> <p>(6) 読めるようになったら、「ゆびなぞりカード」等を使い、指でなぞり、「か ①いち、②に、③さん。」と声を出させながら書かせる。</p> <p>(7) 次に、鉛筆でなぞり書きをさせる。『ひろこさんのたのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ・れんしゅうちょう』を使う。</p> <p>(8) なぞり書きができるようになったら、点線のないシートを使って、写し書きをさせる。</p> <p>(9) 指導に使用したものと同一ワークシートを家庭学習とする。</p> <p><背中文字></p> <p>(1) 子どもの前に、「か、き、く、け、こ」のカードを置いておく。</p> <p>(2) 子どもの背中に、ゆっくり「か」と書く。</p> <p>(3) 子どもに背中に書いた文字と同じカードを取らせる。「か」と書いたときは、「か」のカードを取らせる。</p> <p>(4) 何回か繰り返して練習する。</p> <p>(5) 次に、役割を交代する。指導者の前に、「か、き、く、け、こ」のカードを置く。</p> <p>(6) 子どもが指導者の背中に「き」などと文字を書いたら、指導者が「き」のカードを取る。</p>	<p>『ひろこさんのたのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』(凡人社)【P3、4】</p> <p>平仮名なぞり書きシート</p> <p>『ひらがなカード』(くもん出版)</p> 
<p>10 挨拶</p>	<p>T: 終わりました。さようなら。</p> <p>C: 終わりました。さようなら。</p>	
<p>家庭学習</p>		<p>備考・連絡</p>
<p>か行の平仮名なぞり書きシート (『ひろこさんのたのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』(凡人社)【P3、4】)</p>		

今日の活動・指導のヒント

- (1) 復習では、前日の学習は必ず行いたい。家庭学習の課題を出している場合は、その点検をする。サバイバル表現の復習をさせてから、平仮名表記の練習をさせる。
- (2) 背中文字は、背中に文字を書くという身体接触があるので、対象の子どもが嫌がるような場合は行わない。
- (3) 背中文字の代用として手の平に文字を書くなども考えられる。

指導プラン 3日目

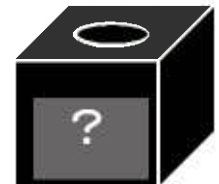
これ、何？
ある、ない？



学習する内容		日本語表現・語彙・文字表記
○えんぴつ、けしごむ ○これ何？ ○ある／ない ○平仮名（さ行、た行）		○鉛筆、消しゴム、ノート、本 ○これ、何 ○ある、ない、傘、10円、辞書、紙 ○平仮名（さ、し、ず、せ、そ、た、ち、つ、て、ど）
流れ	活動（発問・文型・語彙等）	準備物等
1 挨拶	おはようございます。 （その子どもの母国語でも挨拶をする。）	
2 自己紹介の復習	(1) 自己紹介の復習をさせる。 (例) T：(自分の胸を指さしながら) 私は、たなかです。サッカーが好きです。よろしくお願ひします。あなたの名前は何ですか？(子どもの方に手を差し出して聞く。) C：マルコス。(名前を答えさせる。) T：そう。マルコスさん。私(僕)は、たなかです。サッカーが好きです。よろしくお願ひします。(答えながら子どもと握手をする。) (2) 子どもに自己紹介を言わせる。 C：私(僕)は、マルコスです。サッカーが好きです。よろしくお願ひします。(最後までしっかり言うようにさせる。) (3) 挨拶は、はっきりと大きい声で言うことが大切であることも復習させる。	
3 「好き／好きじゃない」の復習	実際の場面を使い「好き／好きじゃない」の復習をさせる。 (例) T：(犬のぬいぐるみを持ち、) これ、犬。好き？好きじゃない？ C：これ、犬。好き。	犬のぬいぐるみ等
4 平仮名の読み書き（あ行か行）の復習	あ行か行の復習をさせる。 「あいうえお」(あり・いぬ・うま・えんぴつ・おに)「かきくけこ」(かさ・きつね・くつ・けむし・こま)を「ひらがなカード」等を使って、読んだり書いたりさせる。	「50音表」を掲示する。 『ひらがなカード』(くもん出版) 『ゆびなぞりカード ひらがな』(くもん出版)


		『ひろこさんのたのしいにほんご1 平仮名・かたかな・かんじれんしゅうちょう』 (凡人社) 平仮名なぞり書きシート
5 ディクテーション	(1) 5問テストを行う。「あ」と言って、子どもが「あ」と言って正しく書ければ○をつける。同様に「い」から「こ」までディクテーション(聞き取り)を行う。指導者は、子どもが間違えたときは、もう一回聞かせて書けるか確認する。書けない場合は、子どもには正解の文字を見て書くようにさせる。	ディクテーション用のテスト用紙
6 「えんぴつ、けしごむ」等のよく使う文房具等の名称	(1) 実物で「鉛筆」と「消しゴム」を教えた後、『日本語学級Ⅰ初期必修の語彙と文字』【P8】の図を見せながら、指導者が「鉛筆?消しゴム?」と聞き、子どもに答えさせる。 (2) <ブラックボックス> ア 上面から手を入れられる穴を空けた箱を用意する。その箱の中に、消しゴムなどを入れておく。 イ 子どもが、その箱の上から手を入れ、触りながら、それが何かを当てさせる。 (3) 実物で「ノート」「本」を教えた後、『日本語学級Ⅰ初期必修の語彙と文字』【P9】の図を見せながら、「ノート?本?」と聞き、子どもに答えさせる。	『日本語学級Ⅰ初期必修の語彙と文字』 (凡人社)【P8~11】 鉛筆(削っていないもの)、消しゴム、ノート、本
7 「これ、何?」の表現	(1) <拡大した物 これ何?> 『日本語学級Ⅰ初期必修の語彙と文字』【P9】の図の①の「?」を指差して「これ、何?」と言い、「!」のところを指差して、答え「本」と言う。②と③は、「これ、何?」とだけ言い、子どもに答えさせる。 (2) <ブラックボックス> ア 上面から手を入れられる穴を空けた箱を用意する。その箱の中に、消しゴム、ノート、などを入れておく。	※ブラックボックスは一面を切り取って中

15~25分
単活動可



15~25分
単活動可

	<p>イ 子どもが、その箱の上から手を入れ、触りながら、それが何かを当てさせる。</p> <p>(3) 『日本語学級1』【P10】の図を見せながら、子どもに答えさせる。</p> <p>(4) <拡大した物 これ何?> 『日本語学級1 初期必修の語彙と文字』【P10】の図を一つずつ指差し「これ、何?」と聞き、子どもに答えさせる。</p> <p>(5) <シルエットクイズ> 『日本語学級1 初期必修の語彙と文字』【P11】の図を見せながら、「これ、何?」と聞き、子どもに答えさせる。</p>	<p>が見えるようにしておいてもよい。</p>
<p>8 「ある／ない」の表現</p> <p>← 15～25分 単活動可</p>	<p>(1) 指導者が、コインを投げ上げ、片手でつかみ、両手を合わせた後、どちらかの手で握る。</p> <p>(2) 指導者が、コインのない方の手を開いて見せて、「ない」と言う。 ※「ない」方から教えるのがポイント。</p> <p>(3) 指導者が、ある方の手を開いて見せて、「ある」と言う。</p> <p>(4) 同じ動作を繰り返し、片手ずつを差し出し、「ある? ない?」と聞き、子どもに答えさせる。</p> <p>(5) 何回かやったら、役割を交代して、子どもにコインを投げてつかむ役をやらせ、指導者に尋ねさせてもよい。</p> <p>(6) 【P15】のイラストを指差しして、何と言っているか子どもに答えさせる。</p> <p>(7) 図①と図②までは、「ある? ない?」と言いながら誘導して行うが、③からは指差しだけで、子どもに答えさせる。</p> <p>(8) 【P16】のイラストを使い、「物+ある?」という尋ね方を教える。</p> <p>(9) 例のイラストと文字を指差ししながら、問答を聞かせる。</p> <p>(10) 次に、図①のaを指差しして「消しゴム ある?」bを指差しして「ない。」cを指差しして「ある。」と子どもに答えさせる。</p>	<p>『日本語学級1 初期必修の語彙と文字』 （丸人社）【P14～17】</p> <p>コイン、水、コップ、財布、鉛筆、消しゴム、ノート、本、傘、10円玉、辞書、トイレシートペーパー</p>
<p>9 平仮名の読み書き（さ行、た行）</p>	<p>あ行・か行と同様に、さ行・た行の平仮名の読み書きを学習させる。</p> <p>最終的に、あ行からた行まで全てのカードを混ぜて行ってもよい。</p>	<p>「60音表」 『ひらがなカード』 （くもん出版） 『ゆびなぞりカード』</p>

	<p>(1) 「ひらがなカード」を見せて指導者が言う。子どもに言わせる。</p> <p>(2) 裏の絵を見せて、指導者がその名前を言う。次に、子どもに言わせる。</p> <p>(3) 繰り返す。指導者がバラバラの順番にしたものを見せて子どもに言わせる。</p> <p>(4) カルタをする。指導者が一文字「(例) た」と言ったら、子どもに「た」を取らせる。</p> <p>(5) 指導者が指差したカードを子どもに読ませる。</p> <p>(6) 読めるようになったら、ゆびなぞりカード等を使って、指でなぞり、「た」と声に出しながら書かせる。</p> <p>(7) 鉛筆でなぞり書きをさせる。</p> <p>(8) 写し書きをさせる。</p> <p>(9) 背中文字を指導者と交互に書き合う。</p>	<p>ひらがな』 (くもん出版)</p> <p>『ひろこさんのたのしいにほんご1 平仮名・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』 (丸人社) 【P.5～12】 平仮名なぞり書きシート</p> 
10 挨拶	<p>T: 終わりました。さようなら。</p> <p>C: 終わりました。さようなら。</p>	
家庭学習		備考・連絡
<p>さ行・た行の平仮名なぞり書きシート 『ひろこさんのたのしいにほんご1 平仮名・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』(丸人社)【P.5～8】</p>		

今日の活動・指導のヒント

- (1) ブラックボックスゲームの代わりに以下のようなことも考えられる。

＜動体視力ゲーム＞

『日本語学級1 初期必修の言葉と文字』(丸人社)で紹介されているような「小窓を開いた厚紙」を用意する。窓の手前側で鉛筆か消しゴムを落とし、小窓から一瞬見える物が、鉛筆か消しゴムのどちらかを当てさせる。

※落としたときの音で分かってしまわないように、タオルなどクッションを置いておく。

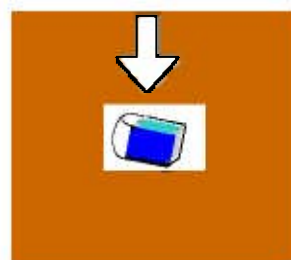
＜風呂敷＞

ア 風呂敷を用意し、風呂敷に鉛筆、消しゴム、ノート、本などをそれぞれ包んでおく。

イ アイマスクをした子どもに、風呂敷に包んである物を触らせて包んである物が何かを当てさせる。

- (2) 「これ、何？」について。

給食の時間で、「これ、何？」を学習しているので、ここでも繰り返して練習させる。





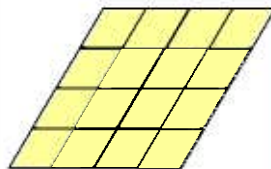
指導プラン 4日目



おなじ。ちがう。
1、2、3…

学習する内容		日本語表現・語彙・文字表記
○10までの数 ○おなじ/ちがう ○平仮名（あ行、か行、さ行、た行の復習）		○1、2、3、4、5、6、7、8、9、10 ○同じ、違う
流れ	活動（発問・文型・語彙等）	準備物等
1 挨拶	おはようございます。 (その子どもの母国語でも挨拶をする。)	
2 自己紹介の復習、「えんぴつ けしごむ」、「これ、何?」の復習、「ある/ない」の復習	(1) 自己紹介の復習をさせる。 (2) 「えんぴつ けしごむ」と「これ、何?」を併せて復習をする。「鉛筆」、「消しゴム」、「ノート」、「本」、「机」、「椅子」を指差し、「これ、何?」と聞いて、子どもに答えさせる。 (3) 「ある/ない」の復習をさせる。 (例1) 『日本語学級1 初期必修の語彙と文字』【P14~18】を参考にし、コインを使って、「ある/ない」を聞き、子どもに答えさせる。 (例2) T: (指導者は自分の鉛筆を見せて) えんぴつ ある? (と聞く。) C: ある。	『日本語学級1 初期必修の語彙と文字』 (丸人社)【P8~11】 鉛筆、消しゴム、ノート、本、机、椅子 『日本語学級1 初期必修の語彙と文字』 (丸人社)【P14~18】 コイン
3 家庭学習の答え合わせ	家庭学習の答え合わせをする。「あ行の平仮名なぞり書きシート」を見ながら、一つずつ言わせる。指書きさせて、正しく書けていれば、○をつける。	
4 平仮名の読み書き（さ行、た行）の復習	さ行た行の復習をする。 「さしすせそ」(さる・しんごう・すいか・せみ・そり)「たちつと」(たまご・ちず・つき・てがみ・とけい)を『ひらがなカード』等を使って、読んだり書いたりさせる。	「50 音表」を掲示する。 『ひらがなカード』 (くもん出版) 『ゆびなぞりカード ひらがな』 (くもん出版) 『ひろこさんのたのしいにはんご1 平仮名・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』 (丸人社) 平仮名なぞり書きシート



<p>5 ディクテーション</p>	<p>ディクテーションを行う。「さ」と言って、子どもが「さ」と言って正しく書ければ○をつける。同様に「し」から「と」までを行う。指導者は、子どもが間違えたときは、もう一回聞かせて書けるか確認する。書けない場合は、正解の文字を見て書くようにさせる。</p>	<p>ディクテーション用 テスト用紙</p>
<p>6 平仮名の読み書き（あ行か行さ行た行）の復習</p> <p></p> <p>10～20分 単活動可</p> <p>10～20分 単活動可</p>	<p>あ行～た行までの復習をさせる。</p> <p><坊主めくり></p> <p>(1) カードに、あ行からた行までの平仮名を書かせておく。(20枚になる。) 指導者も同様に書く。</p> <p>(2) 同じ形のカードに、笑顔（または姫）カードと泣き顔（または坊主）カードを適当数作り、あ行からた行までのカードに混ぜて裏にして置いておく。</p> <p>(3) 引いたカードを読むことができれば、自分のカードにすることができる。読めなければ、場に捨てなければいけない。</p> <p>(4) 指導者と子ども等で交代に引く。</p> <p>(5) 泣き顔カード（坊主）を引いたら、自分が溜めたカードを場に捨てなければいけない。</p> <p>(6) 笑顔カード（姫）を引いたら、場に捨ててあるカードを自分のカードにすることができる。</p> <p>(7) 最後まで引いて、自分のカードが多い方が勝ち。</p> <p><16マスビンゴゲーム></p> <p>あ行からた行までを使って行うことができる。</p> <p>(1) 16マスのビンゴカードに、あ～とまでの20種類の平仮名から16種類の平仮名を自由に選び、子どもに書き込ませる。</p> <p>(2) ビンゴカードとは別に、カードに「あ～と」を子どもに書かせておく。</p> <p>(3) 40枚のカードを切り、裏にして（伏せて）置いておく。</p> <p>(4) 子どもにカードを引かせ、そのカードを読ませる。読むことができ、その文字がビンゴカードに入っていたら、○を付けることができる。</p> <p>(5) 読むことができなかつたら、一緒に声を出して読む。</p> <p>(6) このとき、「ある／ない」の復習を行いながら、一緒にビンゴゲームをする。</p> <p>例：（「た」のカードを引いた場合、）『た』、ある？ ない？</p> <p>(7) 指導者と子どもとが交代でカードを引き、先にビンゴになった方が勝ち。</p>	<p>坊主めくり用カードを作成する。（ビンゴのときにも使う。）</p> <p>※カードを作成することが、平仮名を書く練習にもなる。</p> <p></p> <p>16マスビンゴカード</p> <p>※このカードは、坊主めくり用カードと同じものでよい。（姫、坊主カードは除いておく。）</p> <p></p>

<p>7 「おなじ／ちがう」の表現</p> <p>10～20分 単活動可</p>	<p>(1) 指導者が『日本語学級1』の【P52】のイラスト①の①のイラストの二つの顔を指差し、「同じ」と言う。同じように、②のイラストを指差し、「違う」と言った後、違っている部分（この場合は鼻）を指差し。（イラストの鼻と指導者の鼻を交互に指差し。）</p> <p>(2) 指導者が『日本語学級1』の【P52】のイラスト②のイラストを指差し、それぞれ「同じ？違う？」と尋ね、子どもに答えさせる。</p> <p>※②の③は小学1年生には難しいのでやなくてよい。</p> <p>(3) 『日本語学級1』の【P53】のイラスト③を指差し、それぞれ「同じ？違う？」と尋ね、子どもに答えさせる。</p> <p>※③の⑤～⑧は小学1年生には難しいのでやなくてよい。</p>	<p>『日本語学級1 初期必修の語彙と文字』（凡人社）【P52、53】</p>
<p>8 1から10、0の数字と意味</p> <p>10～20分 単活動可</p>	<p>(1) 教科書の絵を見ながら、数を数える。おはじきやブロックなどを使ってもよい。</p> <p>(2) 身の回りの鉛筆や消しゴムなどを数えさせる。</p> <p>(3) 指導者が指でなぞり、「いち」「に」「さん」などのように声を出しながら数字を書いていく。</p> <p>※1（いち）2（に）3（さん）4（よん、し）5（ご）6（ろく）7（なな、しち）8（はち）9（きゅう、く）10（じゅう）</p> <p>※「し」、「しち」、「く」といった日付の学習で使う読み方もここで学習しておく。</p> <p>(4) 次に、教科書や教科書準拠の算数ドリルを使って、数字の1から10までの数字、次の0を鉛筆でなぞり書きをさせる。</p> <p>(5) 1から10までの数字、0を写し書きさせる。</p>	<p>小学校算数第1学年の教科書 教科書準拠の算数ドリル</p> <p>※『ともだちになろう』（静岡市教育委員会）の表紙に、スペイン語とポルトガル語表記で数字が書かれているので、参照する</p>
<p>9 挨拶</p>	<p>T：終わりました。さようなら。</p> <p>C：終わりました。さようなら。</p>	
<p>家庭学習</p>		<p>備考・連絡</p>
<p>あ行・か行・さ行・た行の平仮名のなぞり書きシート （『ひろこさんのたのしいにほんご1 平仮名・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』（凡人社）【P9～12】）</p> <p>「1～10、0のなぞり書きシート」</p>		

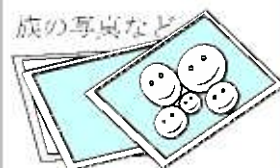
指導プラン 5日目

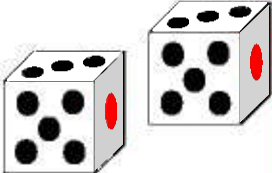
わたし。
いくつ。



学習する内容		日本語表現・語彙・文字表記
○1～10までの数、0（どちらが多い） ○ぼく／わたし ○平仮名（な行、は行）		○ぼく、わたし、お母さん、お父さん、誰 ○これ、いくつ？ ○どちらが多い？（どちらが多い？） ○な行（な、に、ぬ、ね、の） ○は行（は、ひ、ふ、へ、ほ）
流れ	活動（発問・文型・語彙等）	準備物等
1 挨拶	おはようございます。 （その子どもの母国語でも挨拶をする。）	
2 自己紹介の復習	自己紹介の復習をさせる。	
3 「おなじ／ちがう」の復習	「おなじ／ちがう」の復習をさせる。 （例）ひらがなカードの「き」と「さ」を並べ、「おなじ？ちがう？」と尋ね、子どもに答えさせる。	『ひらがなカード』（くもん出版）
4 家庭学習の答え合わせ	家庭学習の答え合わせをする。「な行は行の平仮名なぞり書きシート」を見ながら、一つずつ言わせる。指書きさせて、正しく書けていれば、指導者が○をつける。	
5 平仮名の読み書き（あ行～た行）の復習	あ行、か行、さ行、た行の復習をさせる。	
6 ぼく／わたし	(1) 『日本語学級1初期必修の語彙と文字』【P26】のイラスト①を使い、「僕」と「私」の意味を教える。 (2) 『日本語学級1初期必修の語彙と文字』【P26】のイラスト②を使い、子どもに、②の吹き出しに「僕」か「私」を入れて答えさせる。 (3) 指導者が自分の幼い頃の写真を持ってきて、指差ししながら、「これ、誰？」と聞く。「これ、私。」と答えさせたり。「これ、お父さん。」「これ、お母さん。」と言わせたりする。	『日本語学級1初期必修の語彙と文字』（丸人社）【P26～27】 指導者や子どもの家族の写真など

20～30分
単活動可





	<p>(4) 『日本語学級1 初期必修の語彙と文字』【P27】の3を使い、吹き出しに「僕」、「私」、「お母さん」「お父さん」を入れて、子どもに白頭で言わせる。</p>	
<p>7 1～10までの数、0</p> <p>20～30分 単活動可</p>	<p>(1) 1～10までの数、0の復習をさせる。</p> <p>(2) 指導者がサイコロを振り、「これ、いくつ？」と聞いて、出た目の数を子どもに言わせる。</p> <p>(3) 子どもがサイコロを振る。子どもに「これ、いくつ？」と質問を言わせて、指導者が出た目の数を言う。</p> <p>(4) 指導者と子どもが同時にサイコロを振り、「同じ？違う？」と聞く。</p> <p>(例)</p> <p>同じ目が出た場合、「同じ」と言う。片方を指差して、「これ、いくつ？」と聞く。子どもは「8」と答える。もう片方を指差して「いくつ？」と聞く。子どもは「3」と答える。「同じ」と言う。一緒に「同じ」と言う。</p> <p>(例)</p> <p>違う目が出た場合、「違う」と言う。片方を指差して、「これ、いくつ？」と聞く。子どもは「4」と答える。もう片方を指差して「いくつ？」と聞く。子どもは「5」と答える。</p> <p>(5) 「違う」場合、「どっちが多い？(どちらが多い?)」と聞く。多い方のサイコロを指差して「こっちが多い。」と言う。子どもと一緒に「こっちが多い。」と言う。</p> <p>(6) 何回か繰り返した後、「どっちが多い？」と聞き、多い方を子どもに指差させる。</p>	<p>小学校第1学年算数の教科書</p> <p>教科書準拠のドリル サイコロ2個(1～10までの目から選んで書いた手作りのサイコロや多面体の数字入りサイコロなど)</p> 
<p>8 平仮名の読み書き(な行、は行)</p>	<p>あ行、か行、さ行、た行と同様に行う。</p> <p>(1) ひらがなカードを見せて言う。言わせる。</p> <p>(2) 裏の絵を見せて、指導者がその名前を言う。次に子どもに言わせる。</p> <p>(3) 繰り返す。指導者がバラバラの順番にしたものを見せて子どもに言わせる。</p> <p>(4) カルタをする。指導者が(例)「な」と言い、子どもに「な」のカードを取らせる。</p> <p>(5) 指導者が指差したカードを子どもに読ませる。</p>	<p>「50音表」 『ひらがなカード』(くもん出版) 『ゆびなぞりカード ひらがな』(くもん出版) 『ひろこさんのたのしいにほんご1 平』</p>

	<p>(6) 読めるようになったら、ゆびなぞりカード等を使って、子どもに、例「な」と声を出させながらなぞり書きをさせる。</p> <p>(7) 鉛筆でなぞり書きをさせる。</p> <p>(8) 写し書きをさせる。</p> <p>(9) 背中文字を行う。</p>	<p>仮名・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』 (凡人社)【P13~21】</p> <p>平仮名なぞり書きシート</p>
<p>9 挨拶</p>	<p>T: 終わりました。さようなら。</p> <p>C: 終わりました。さようなら。</p>	
<p>家庭学習</p>		<p>備考・連絡</p>
<p>な行・は行の平仮名のなぞり書きシート (『ひろこさんのたのしいにはんご1 平仮名・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』(凡人社)【P13~16】)</p> <p>「1~10、0のなぞり書きシート」</p>		

指導プラン 6日目



来て。見て。
聞いて。

学習する内容		日本語表現・語彙・文字表記
○1～10までの数、0 (順番) ○きて／みて／きいて ○平仮名 (ま行、や行)		○0、1、2、3、4、5、6、7、8、9、10の順番 ○来て、見て、聞いて、書いて、読んで 立って 座って 覚えて 見せて 言って (ください) ○ま行 (ま、み、む、め、も) ○や行 (や、ゆ、よ)
流れ	活動 (発問・文型・語彙等)	準備物等
1 挨拶	おはようございます。 (その子どもの母国語でも挨拶をする。)	
2 「ぼく／わたし」の復習 	ぼく／わたしの復習をさせる。	『日本語学級1初期必修の語彙と文字』 (凡人社)
3 家庭学習の答え合わせ	家庭学習の答え合わせをする。「な行は行の平仮名なぞり書きシート」を見ながら、一つずつ言わせる。指書きさせて、正しく書けていれば、指導者が○をつける。	
4 平仮名読み書き (な行、は行) の復習 	な行、は行の復習をさせる。	『50音表』 『ひらがなカード』 (くもん出版) 『ゆびなぞりカード ひらがな』 (くもん出版) 『ひろこさんのためのいっしょにぼんご1 平仮名・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』 (凡人社) 平仮名なぞり書きシート

<p>5 ディクテーション</p>	<p>「な」と言って、子どもが「な」と言って正しく書ければ○。同様に「に」から「ほ」までディクテーションを行う。</p>	<p>ディクテーション用テスト用紙</p>
<p>6 「きて／みて／きいて」の表現</p> <p>10～20分 単活動可</p>	<p>(1) 『日本語学級1初期必修の語彙と文字』【P30】の①のイラスト①～⑤を指差しながら、「来て」「見て」「聞いて」「書いて」「読んで」と言う。</p> <p>(2) 『日本語学級1初期必修の語彙と文字』【P31】の②のイラスト①を使う。</p> <p>(3) 「来て」と言いながら、イラスト①のようなジェスチャーをする。</p> <p>(4) イラスト②「見て」イラスト③「聞いて」イラスト④「書いて」イラスト⑤「読んで」も同様に行う。</p> <p>(5) 子どもに、指導者が言った通りのジェスチャーをさせる。</p> <p>(6) 子どもに「来て」と言わせる。その通りの行動を指導者が行う。(その子どものところに行っておげる。)</p> <p>(7) 子どもに「読んで」と言わせる。その通りの行動を指導者が行う。(その子どもに実際に本等を読み聞かせる。)</p> <p>(8) 『日本語学級1初期必修の語彙と文字』【P30】の①のイラスト①～⑤を指差しながら、吹き出しに当てはまる言葉を子どもに言わせる。</p> <p>(9) 慣れてきたら、アトランダムに指差し子どもに言わせる。</p> <p>(10) 『にほんごをまなぼう』【P20】のイラストを指差しながら同じように行う。</p>	<p>『日本語学級1初期必修の語彙と文字』(凡人社)【P30～31】</p> <p>『にほんごをまなぼう』(文部省)【P20】</p> <p>※『ともだちになろう』(静岡市教育委員会)【P15、16】のイラストを使うこともできる。</p>
<p>7 1～10までの数、0(順番)</p> <p>10～20分 単活動可</p>	<p>(1) 1～10までの数、0の復習をさせる。</p> <p>(2) 小学校第1学年の算数の教科書を使う。</p> <p>(3) 0から10まで順番に積み上げたブロックの数を数えさせる。</p> <p>(4) 数字の0から10までのカードを順番に並べさせる。</p> <p>(5) 1から10までの数字を順番に線で結んでいくと絵ができるようなドリルを行わせる。</p>	<p>小学校第1学年算数の教科書</p> <p>教科書準拠のドリル 数字カード(0～10) ブロック</p> 

<p>8 平仮名の読み書き(ま行、や行)</p>	<p>今までと同様に行う。</p> <p>(1) 「ひらがなカード」を見せて指導者が言う。子どもに言わせる。</p> <p>(2) 裏の絵を見せて、指導者がその名前を言う。次に、子どもに言わせる。</p> <p>(3) 繰り返す。指導者がバラバラの順番にしたものを見せて子どもに言わせる。</p> <p>(4) カルタをする。指導者が、(例)「ま」と言い、子どもに「ま」を取らせる。</p> <p>(5) 指導者が指差したカードを子どもに読ませる。</p> <p>(6) 読めるようになったら、ゆびなぞりカード等を使って、子どもに、例「ま」と声を出させながらなぞり書きをさせる。</p> <p>(7) 鉛筆でなぞり書きをさせる。</p> <p>(8) 写し書きをさせる。</p> <p>(9) 背中文字を指導者と交互に書き合う。</p>	<p>「50 音表」</p> <p>『ひらがなカード』 (くもん出版)</p> <p>『ゆびなぞりカード ひらがな』 (くもん出版)</p> <p>『ひろこさんのためのしいにほんご1 平仮名・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』 (丸人社)【P22～28】</p> <p>平仮名なぞり書きシート</p>
<p>9 挨拶</p>	<p>T：終わりました。さようなら。</p> <p>C：終わりました。さようなら。</p>	
<p>家庭学習</p>		<p>備考・連絡</p>
<p>ま行・や行の平仮名のなぞり書きシート</p> <p>『ひろこさんのためのしいにほんご1 平仮名・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』(丸人社)【P22～25】</p> <p>「1～10まで数字を結んでいくと何かの絵ができるドリル」(算数教科書等)</p>		

今日の活動・指導のヒント

- (1) 指導計画では、6日目の給食から交流給食となる。在籍学級から1グループが取り出し学級に来て一緒に給食を食べるが、その際に、この「きて／みて／きいて」で学習したことを使えるようにしたい。
- (2) 友人関係構築支援の「心を伝える話し方(共通の行動スキル)」にある「相手に近づく。相手をきちんと見る。聞こえる声で話す。笑顔で言う」を、繰り返し伝える。


指導プラン 交流給食編



これ、何。
ごちそうさまでした。



学習する内容		日本語表現・語彙・文字表記
<p>○給食を小グループで食べながら、自己紹介をする。</p> <p>○友達の名前を覚える。</p> <p>○「来て／見て」を使う。</p> <p>○「これ、何?」「ある／ない?」「おいしい」「おなじ／ちがう」など、今までに学習したことを使って会話をする。</p>		<p>○いただきます。ごちそうさまでした。</p> <p>○来て／見て</p> <p>○これ、何?など</p>
流れ	活動（発問・文型・語彙等）	準備物等
	<p>在籍学級の担任等が、「今日は、〇〇さんと一緒に給食を食べましょう。」と言って、1グループを、外国人の子どもがいる教室に連れてくる。</p> <p>※子どもは、第4、5日目に在籍クラスで自己紹介を済ませている。</p>	<p>在籍学級の1グループ分の机椅子</p>
1 挨拶	<p>(1) 指導者が在籍学級の子どもと外国人の子どもに対して「こんにちは。」と声を掛ける。</p> <p>(2) みんなで「こんにちは。」と挨拶をさせる。</p> <p>(3) 「マルコスさんの生まれた国（〇〇〇〇）では、「こんにちは。」は■■■■と言います。一緒に言ってみましょう。」と言って、一緒に〇〇〇〇語で挨拶をさせる。</p> <p>※指導者は、事前に「こんにちは」を〇〇〇〇語で何と言うか調べておく。</p>	<p>白衣、帽子、ナプキン、マスク</p> <p>外国人の子どもの母語では、こんにちは及び食事前や食事後の挨拶をどう表現しているのか調べておく。</p>
2 自己紹介	<p>(1) 「この前、学級全体の前で挨拶をしましたが、もっと仲良くなるように、もう一度、互いに自己紹介をしましょう。」と指導者が言う。</p> <p>(2) 子どもに対し、「例：マルコスさん、自己紹介しましょう。」みんなに掌を向けながら、「マルコスさん、自己紹介」と言って促す。</p> <p>(3) 子どもは、「わたし（ぼく）は、マルコスです。よろしくお願ひします。」と言う。</p> <p>(4) 在籍学級の子どもも同じように自己紹介する。</p>	
3 給食の挨拶	<p>(1) ジェスチャーを付けて、指導者が「いただきます。」と言う。</p> <p>(2) 子どもたちも一緒に「いただきます。」と言う。</p> <p>(3) 「マルコスさんの生まれた国（〇〇〇〇）では、食べる前</p>	

	<p>の挨拶はないそうです。」と指導者が調べておいて説明する。または、「マルコスさんの生まれた国（〇〇〇〇）では、食べる前に、■■■と言います。一緒に言ってみましょう。」と言って、一緒に〇〇〇〇語で挨拶をさせる。</p>	
<p>4 今まで学習した表現を使った会話</p>	<p>(1) 「おいしい？」</p> <p>(2) 子どもの母国にもあるだろう食べ物の場合、「これ、〇〇〇〇語、何？」と聞いて、その子どもの母国語で言わせることもできる。</p> <p>(3) 「これ、〇〇〇〇国にある？ない？」と聞くこともできる。</p> <p>(4) 「好き？好きじゃない？」</p> <p>※(1)～(4)までの表現を、名前を呼びながらできるように促す。</p>	<p>給食で出される様々な食べ物や食器等</p> 
<p>5 給食の挨拶</p>	<p>(1) ジェスチャーを付けて、指導者が「ごちそうさまでした。」と言う。</p> <p>(2) みんな一緒に「ごちそうさまでした。」と言う。</p> <p>(3) 「マルコスさんの生まれた国（〇〇〇〇）では、食べた後に言う挨拶はないそうです。」と指導者が調べておいて説明する。または、「マルコスさんの生まれた国（〇〇〇〇）では、食べた後に、□□□と言います。一緒に言ってみましょう。」と言って、一緒に〇〇〇〇語で挨拶をさせる。</p>	
<p>6 友達の名前</p>	<p>給食を食べた後の昼休みを使って、今日、一緒に給食を食べた子どもの名前を覚えていく。</p> <p>※6日に「きて／みて／きいて」を学習する際に、この活動に使う場面を練習しておく。</p> <p>(1) 外国人の子どもに、第1日目に作った自己紹介カードや写真が掲示されているところに行かせる。他の子どもには給食を食べたときの席に座らせておく。</p> <p>(2) 外国人の子どもに、座っている子どもに向かって、「来て。」と言うように促す。</p> <p>※大きな声で、相手が座っているところまで届く声で言わせる。</p> <p>(3) 他の子どもは外国人の子どもの周りに集まる。指導者は「マルコスさんが『来て』と言っているよ。行きましょう。」と言い、促す。</p>	<p>あらかじめ撮影しておいた、交流給食を一緒に食べた子どもの写真</p> <p>名前を書き込めるカード</p> <p>マジック等筆記用具</p> <p>※今日の活動・指導のヒントを参照する。</p>

	<p>(4) 外国人の子どもは、自分の自己紹介カードや写真を指差ししながら、「見て！」と言い、「これ、僕（私）」と言う。</p> <p>(5) 次に、自分の名前が書いてある部分を指差しながら、「マルコス。よろしく（お願いします。）」と言う。</p> <p>(6) 次に、指導者は、用意しておいた外国人の子どもの写真とマルコスの自己紹介カードと同じように名前を書き込めるカードを見せる。</p> <p>(7) 外国人の子どもは、自分の名前カードを指差しながら、「僕、マルコス。」と言い、外国人の子どもに対して、その子の写真と名前カードを指差しながら、「(名前を)書いて。」と頼み、名前を書いてもらう。</p> <p>(8) 指導者が外国人の子どもに、「名前カードを読んで、マルコスさんに教えてあげて。」と促し、外国人の子どもが「わたし、富士山花子（です。）」と答えるようにする。</p> <p>(9) 外国人の子どもに書いてもらった名前カードと写真を見ながら、外国人の子どもは一緒に「ふじやまはなこ、ふじやまはなこ さん。」と言う。</p> <p>(10) 同様にして、今日、一緒に給食を食べた外国人の子どもに名前を書かせ、一緒に発音させ、覚えさせる。</p>	
--	---	--

今日の活動・指導のヒント

- (1) この指導計画では、4 日目から 5 日目に在籍学級で自己紹介を終えている。6 日目から 10 日目までは、在籍学級の 1 グループずつが取り出し学級に行き、給食を一緒に食べる。外国人の子どもは、在籍学級に入る前に、1 グループずつの子供と話し、互いに自己紹介をし、名前を覚える。徐々に慣れ、11 日目の給食から在籍学級に入るようにする。
- (2) 食べ物は具体物であり、実際に食べるという体験をしながら日本語を学習することができるので、言葉や表現を覚える絶好の機会である。給食の時間に覚えさせようというのではなく、楽しみながら表現を使い、言葉を増やすようにしていきたい。
- (3) 「来て／見て／書いて」等の表現を学習した後なので、実際に使う場面を設定し、「上手に頼む」の言い方を積極的に使うように促す。また、人が何かをしてくれたときには、「ありがとう。」と言うことも、丁寧に繰り返して指導したい。
- (4) 友人関係構築支援の「心を伝える話し方（共通の行動スキル）」にある「相手に近づく。相手をきちんと見る。聞こえる声で話す。笑顔で言う」を、繰り返し伝える。

- (5) 「3 今まで学習した表現を使って会話をする」のところでは、ただ単に給食を一緒に食べるのではなく、ソーシャルスキルトレーニングの手法を用い、友達の名前を呼び、学習した表現を使っていく。
- 指導者がモデルとなり、まず、その表現を言う。次に、演技を付けて実際に行う。その後、外国人の子どもにやらせてみる。うまくできたら褒める。
- 日本人の子どもが、外国人の子どもに、「マルコスさん、これ、おいしい?」「マルコスさん、〇〇〇〇語(で話)、何(と言うの)?」「これ、〇〇〇〇国(に)、ある?」「〇〇さん、これ、好き?」などと言えるように、指導者がモデリングをしてから、外国人の子どもにさせる。
- 外国人の子どもが、立場を入れ替えて同じように日本人に聞くようにすることもできる。互いに言い合えるように促す。
- (6) 「6 友達の名前を覚えよう」のところでは、覚えた友達の名前を次の日の指導に生かす。
- 例：指導者が「昨日、一緒に給食を食べた友達「ふじやまはなこさん」の「ま」を今日は覚えよう。」「これは、ふじやまさんの「ま」だね。」など友達の名前をきっかけに文字学習を行うことができる。
- (7) 小グループで交流する日本人の子どもに、事前に活動のねらいや外国人の子どもが日本に適應しようと努力していることを伝え、無関心やからかいを防止する。
- (8) 担任と初期指導教員等との連携については、組織的に理解を深め、双方が主体的になって子どもをサポートしたい。
- 例
- ・職員会議や研修で交流給食について共通理解を図っておく。
 - ・カリキュラムや年間計画の作成に交流給食の計画を加味しておく。
 - ・担任、学年担当、関係のある分掌(給食担当、生徒指導など)主体的に対応にあたる。 等



第1日目に作成した自己紹介カードを掲示しておく。

(一番下の空欄は、誕生日の聞き方を学習した後に、誕生日を書き入れるためのスペース)



きてー！



みてー！

わたしは、
〇〇〇です。

よろしく

おねがいします。